



# 自分の人生設計に 自治と歴史が 役立つ

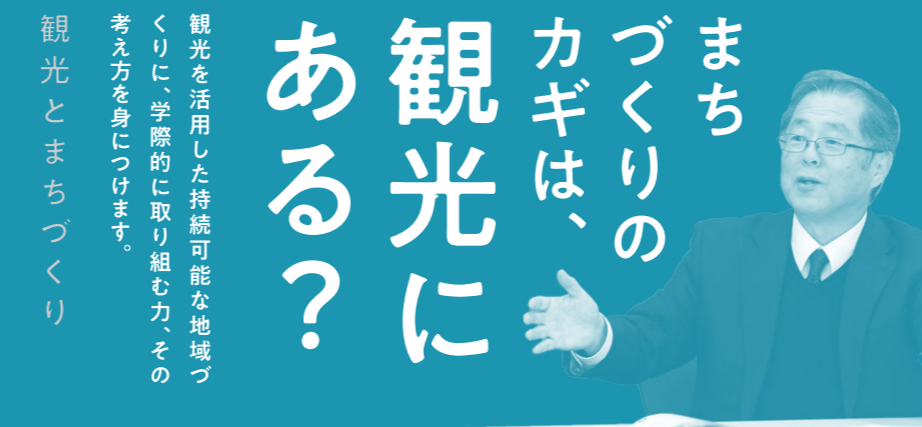
どんな政治にも、メリットとデメリットがあります。現在を分析し、未来を創造するためにも、これまで重ねてきた自治の歴史から過去を知り、考える力を携えましょう。

# 地球温暖化を もう一度 疑ってみる

地理学を  
ヒントに  
どこで  
暮らそう？  
データ分析と確率

# 都市の交通問題には 「人の心」が 映し出される？

交通は数学的に導き出せる社会科学だが、そこには必ず人が関わる現象。自分なりの答えを導いてみましょう。  
交通の計画



まちづくりのカギは、観光にある？

観光を活用した持続可能な地域づくりに、学際的に取り組む力、その考え方を身につけます。

観光とまちづくり

都3市 情報学部 2025 No.30

# 学部の窓

30周年を迎えた、都市情報学部文系・理系の枠を超えた学部で、広く自由に、さまざまな学問に触れることができる学部です。節目となる今回の表紙には30年の学びの中で生まれたさまざまなキーワードをまとめた「言葉で見える都市情報学部の世界に触れてみてください」

分析力と創造力で、どんなまちをつくらう。

# 金融の理論を知ると 投資に強くなる？

金融の理論を知り、どのように求めどのように活用できるか？を根本的に理解することで、数字を味方にして物事を考える力を身につけます。

里山を歩きながら  
地域環境の  
未来を想う

# 「価値」が計算 できるって本当？

観光の評価  
都市の課題を把握し、改革していくための力を、「わがこと」として考えます。

# 自分の生まれ育ったまちの 都市計画を考えてみる

多様化の世の中を支える、社会保障の考え方を学び、どんなことにも疑問を持つ思考を身につけます。

# 「社会保障の ストーリー」とは？

お金の流れを理解できる  
大人になるために  
企業と会計

# 都市問題をAIと一緒に 解決する 方法

知識と情報処理  
さまざまな問題を解決するツールとして活用されている人工知能の、知識を処理する能力について学び、それを「上手く使う」力を身につけます。

新規事業  
立ち上げを  
失敗しない  
コツ

都市と事業構想

# 「ものを買う」という 行動が社会を変える？

過去を知ることから  
未来の水環境をつくる

人と水環境の関わり方を改善するための対策、その計画や評価を学びます。

# 未来を 強く生き 抜く武器

プログラミングは  
強く生き抜く武器  
プログラミング入門

# 防災・減災は まちづくりと ひとづくり

まちに飛び出して  
あらゆる  
声を集め  
考えて  
みよう

防災とまちづくり

# 微分積分と 確率を 世の中 のために使う術

データ分析と確率

# ものを買う 買い たくなる メカニズムが ある？

企業の経済

# 地域環境の 保全

地形や史跡から、過去のまちの姿を見つけ出すことのできる都市や里山を、実際に歩きながら、環境保全の必要性とあるべき姿を肌で感じ、観察力と洞察力を身につけます。

# ニューツーリズム 未来の観光を 考える

観光の資源

# OR的問題解決の合言葉は “見方は 味方”

日常的にあふれる  
“音”も理論的に  
分析できる？

まさに今リアルな  
国際関係に  
目を向ける

都市と国際関係

評価のOR

# キャッシュレスが 進んでも 貨幣は なくならない？

貨幣の経済

SINCE 1995

# 都3市

ANNIVERSARY

情報学部

都市のデザイン

都市のメガネを  
かけてまちを  
見てみよう

SINCE 1995

# 都3市

ANNIVERSARY

情報学部

都市のデザイン

1995  
START!

都市情報学部 開設

「都市」と「情報」をテーマにした、全国唯一の学部として開設されました。岐阜県可児市の「可児キャンパス」で、都市情報学部はスタートしました。



ファッションの視点で見ると30年のちがい!



2001

大学院博士 後期課程 設置

都市人間情報専修分野と、都市空間創造専修分野の2分野で、大学院を設置。



30年前のVR!!



昔のパソコン

2008.4

カリキュラムの改訂により、修士課程・博士課程専修分野に、「社会システム学」「都市創造学」が追加。

2008.4

基礎学力の補充のための「ファンデーションコース」を実施。表現力UP講座、数的思考力UP講座が開講しました。

2013.4

大学院が「大学院基礎力育成プログラム」導入



昔の教室の様子

2017

可児キャンパスから、「ナゴヤドーム前キャンパス」へ移転

「キャンパスから地域へ、キャンパスから世界へ」をコンセプトに、地域社会と協働した多様な活動を創出し、日常的に国際感覚を育むことができる新キャンパスとして誕生しました。



当時のキャンパス風景



当時1番の人気ランチ!!

可児キャンパスの食堂で、当時一番人気だったのが日替わりランチでたまに登場する「鶏肉の山賊揚げ」でした。普段の日替わりランチの2~3倍の注文があったそうです。



2001.4

西可児駅からの無料通学バスの運行が始まりました。それまではみんな、駅から坂道を20分くらい歩いて通っていました。

2003.3

オープンリサーチセンター(都市情報学研究所)が設置され、開所式と記念シンポジウムが開かれました。



2008

新カリキュラムへ! アナリストコースとプランナーコースを設置

新コンセプトは「Urban Science with Service Science」。それまでの「アーバン・サイエンス」に、新たに「サービス・サイエンス」を追加し、新カリキュラムでスタートしました。この年に、アナリストコース(理系コース)とプランナーコース(文系コース)の2コースを設置。ゼミナールは「専門部門・総合科目」に位置付けられました。

2014

学部開設 20周年!

名古屋ガーデンパレスにて、都市情報学部20周年記念講演会と記念式典、祝賀会を開催しました。



2019

CBMLがスタート!

地域と協働し課題の発見・提案・解決を実践的に学ぶ学生主体の教育プログラム「CBML (Community Based Machizukuri Learning)」が始動。岐阜県美濃加茂市の協力のもと、フィールドワークや地域での活動、グループワークを行いました。



2022

「まちづくりと観光」を学べる、新カリキュラムを実施

観光のもつ魅力や可能性を自ら発掘し、「まちづくり」に活かすことのできる人材、情報技術を身につけ、データに基づいた観光政策の分析や提案のできる人材の育成を目的とし、観光系の観光系9科目が学べるカリキュラムに進化しました。「キャリア認証プログラム(ツーリズム分野)」も導入。



2021

「都市と人間」が基軸科目としてリニューアル

まちづくりの第一線で活躍するゲストとの白熱したトークから、リアルな現場を覗き見します。都市情報学の学びのスタートラインに立つ1年生が、さまざまなセクターや職業からまちづくりに関わる人の話を聞き、ロールモデルを見つけることで、自分自身のこれからの学びや将来像を考える講義です。



2020

大学院が新カリキュラム実施へ

「研究指導科目=特別研究」の期を分割した研究指導(修士課程4期、博士後期課程6期)、博士後期課程「授業科目=特講」を配置しました。



2020.3

学部創立25周年を記念して、『都市情報学入門(創成社)』を出版

若かりし日の



Prof. Kamei

Prof. Ohno

Prof. Wakabayashi

Prof. Kamata

Prof. Akagi

先生を見つけよう!

Prof. Nobaru

Prof. Zhang

Prof. Fukushima

Prof. Inaba

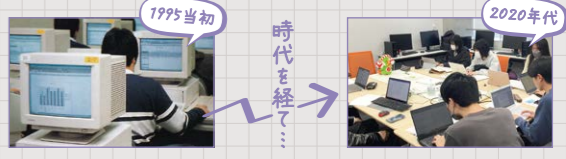
Prof. Teshima

Prof. Koike

Prof. Suguro

Prof. Shimada

30年のちがい! モノの視点で見ると、パソコン新旧!



学部開設の1995年頃は、Windows95が登場した年。パソコンが専門的な道具から、一般家庭やオフィスでも使われ始め、インターネットの普及も進みました。フロッピーディスクも最盛期!現在は薄型で高性能なパソコンが普及し、授業でも活用されています。

時代を彩る ITガジェット



30年前は音楽を聴くポータブルCDプレーヤーやウォークマン、初期のデジタルカメラ、PDA(携帯情報端末)、初代PlayStationの登場と、単機能に特化したガジェットが主流。現在は多機能化とコンパクト化が進み、そのほとんどがスマホでできるようになりました。

2023

「まちづくり実習」が正課授業科目に!

2019年から取り組んできた「CBML」が、「まちづくり実習(CBML)」として正課授業科目になりました。



2023

「まちづくり特別入学試験」新設

まちづくりに取り組む団体や自治体が開催する、まちづくりや観光に関する研究発表会、コンテストなどでの発表実績を生かして出願できるようになりました。

2024

30TH ANNIVERSARY

学部開設30周年

都市情報学部が、可児キャンパスで誕生してから30年。大学祭に合わせて、記念講演会を開催します。



# 都市情報学部 創立30周年記念特集

## 都市情報学とまちづくりの過去 → 現在 → 未来

都市情報学部は、2024年に創立30周年を迎えました。この特集では、30周年記念講演事業や、それに関連した広島視察を振り返りながら、学部の過去と現在、そして未来について考えていきます。



### 都市情報学部30年 これまでとこれから「都市情報学部って何だろう？」

#### まちに飛び出し、まちを学び続けてきた30年

都市情報学部は30年前、文系でも理系でもない新しい学問領域を目指して設立され、以来、常に新しい時代の都市問題解決に向けた挑戦を続けてきました。学部の骨格をつくったのは、市場経済・公共経済・都市基盤・自然環境の4分野。ここに情報処理の技術を組み合わせて都市の課題に挑むというビジョンは、設立当初から変わっていません。

カリキュラムや研究内容も進化を続けてきました。情報処理技術の分野が大幅に拡充され、データ解析や統計処理を学ぶ環境が整ったことにより、現代のデータドリブンな社会に対応する力が発揮できている

と感じています。近年は新たに観光や環境開発分野にも注力し、都市課題の多角的な解決を目指しています。

都市情報学部の教育の中核にあるのは「現場での学び」です。私もこれまで、美濃加茂市や犬山市などでの調査・提案活動や、熊本地震後の復興支援調査など、とにかく地域に入り込み、現地での学びを推進してきました。近年では、学生が主体となって地域住民と共に学ぶ実践型教育プログラム「CBML (Community Based Machizukuri Learning)」が導入され、2024年度からは正式に単位認定されました。

30年間で巣立って行った約5,000名の

卒業生は、情報通信業界をはじめ、多岐にわたる分野で活躍しています。地域に根ざした活動をする人、海外で活躍する人など、卒業生たちの輝かしい話を聞きながら、都市情報学が持つ実践的な価値と可能性を感じています。

都市情報学部は、設立から今まで、何度もその意義を問われてきました。では、都市情報学とは一体何なのか。私は「都市情報学部で行われている教育と研究の総体が、都市情報学そのものである」と、今は考えています。広範な学問分野と多様な実践を包含するこの学部が、今後も進化を続けていくと期待せずにはられません。

#### 都市情報学部 海道 清信 名誉教授

京都大学大学院工学研究科博士課程修了後、地域振興整備公団に20年間勤務。学部設立時から都市情報学部の立ち上げに携わる。2020年3月に定年退職、名誉教授に。



#### 都市情報学部 創立30周年記念公開講座

### 都市情報学の30年とこれから

30周年記念公開講座として、2024年11月2日に開催。海道名誉教授と第1期卒業生の山仲巖さん、前島慶子さんをお迎えして、基調講演と学生を交えたパネルディスカッションを行いました。



#### Connecting people ひとつをつなぐ

### 人と人とのつながりが今の私をつくっています

私が入学したのは1995年、都市情報学部ができたその年でした。「都市」という言葉に何か惹かれるものがあり、文系でも理系でもない新しい学問領域に挑戦してみたいと思ったのがきっかけでした。卒論は、阪神・淡路大震災の交通需要と交通システムの危機管理体制について考察・研究しました。そのとき先生から「小さなデータの積み重ねから見えないものが見えてくる」と教えていただいた言葉がとて心に残っています。膨大なデータに向き合い、課題の本質を掘り下げていくプロセスの大切さや考え方が、経営者になった今、大いに役立っています。

卒業後は地元広島に戻り、父が営むトーホー株式会社に入社しました。現在は代表取締役として、グラスビーズ製造だけでなく、環境問題や地域貢献にも取り組んでいます。また、広島の魅力を発信する取り組みとして、工場見学ツアーを観光商品化するプロジェクトも進めています。地元住民の皆さんと企業のつながりを深める場の提供を掲げ、一粒のビーズをきっかけに、世界中の人々をつなぐ会社に成長していきたいと考えています。



#### トーホー株式会社 代表取締役 山仲 巖 氏

1975年愛知県生まれ。名城大学卒業後、タカラスタンダード株式会社に勤務。その後家業のトーホー株式会社へ入社。2009年に代表取締役就任。



#### 都市情報学部 30周年記念

### 人生を生き抜くための力を都市情報学部で学びました

1995年、都市情報学部に入社しました。岐阜県の小さな田舎町で育った私にとって、都市情報学部での学びは新しい世界への扉を開くものであり、大きな期待とともにスタートしました。特に印象に残っているのは、都市問題を多角的に捉え、解決策を模索する授業の数々です。文系・理系の枠を超え、経済、行政、環境、デザインといったさまざまな視点から物事を考える力を養うことができました。これらの学びは、私の社会人としての基盤となり、今なお役立っています。

卒業後は一般企業に勤務し、その後、名城大学の職員としての道を選びました。現在は開学100周年事業室及び総務部スポーツマネジメント課の課長として、本学の資源やスポーツを通じた地域活性化や大学の発展に尽力しています。名城大学での学びは、人生のさまざまな課題を乗り越える力につながっています。転職や住宅購入といった人生の大きな決断をする際にも、大学時代に学んだことが指針となりました。人生を生き抜くための視野の広げ方、選択肢の考え方を、この学部で身につけることができた実感しています。



#### 名城大学 開学100周年事業室 総務部スポーツマネジメント課 前島 慶子 課長

2026年に開学100周年を迎える名城大学の関連事業に携わる。併せて、名城スポーツの価値向上と定着に取り組む。都市情報学部同窓会会長も務める。





# Present

現在  
of the faculty of Urban Science

1期生 山仲さんが経営する「トーホービーズ」視察

## 都市情報学を学んだ先輩が いま、広島のみちで挑む。

今回、参加を希望する学生を募って開催した「山仲氏訪問と広島視察」。この視察の一番の目的は、広島でガラスビーズの製造・販売を手掛けるトーホー株式会社の代表取締役である山仲巖さんを訪問し、工場を見学させていただくことでした。事前に山仲さんから「地方都市や地元で働き、定住してもらうには?」というテーマが与えられ、当日は学生が一人ずつプレゼンテーションを行いました。

視察当日、まずは山仲さんによる会社説明が行われました。ガラスビーズの歴史や、トーホービーズが誇る高品質なビーズ製造へのこだわり、国内外でのブランド展開の話に加え、地域社会との関わりについても詳しくお話しいただきました。さらに、山仲さんが学部生だった頃のエピソードも交え、当時の学びが現在の活動にどう活かされているのかなど、語っていただきました。

その後、一時間ほど工場を見学。ビーズが完成するまでの貴重な工程を、実際に動いているラインを間近で見ながら説明を聞きました。製造過程の緻密さや、品質を守るための技術的な工夫に、学生たちは驚きと感嘆の声を漏らしていました。



工場見学後は、学生たちのプレゼンテーションが行われました。一人ひとりが分析やアイデアを発表し、山仲さんからも丁寧なフィードバックがありました。視察を終えた学生からは「ビーズの製造工程と品質へのこだわりを聞いて、とても驚きました」「プレゼン時に山仲さんが感想を述べて

くださったのですが、心から広島のみちを良くしたいと考えていることが伝わってきました。山仲さんのように、地域に愛着を持って仕事ができる人になりたいと思いました」「ものができあがる工程を知るのは想像以上に面白く、とても充実した時間でした。名古屋に帰ってきてから、ふと見かける町工場がどんなものをつくっているのか、気になるようになりました」などの感想が寄せられました。今回の視察は、地域社会と密接に関わりながらさまざまな価値を生み出す企業の姿勢に触れる、貴重な機会となりました。



記念講演で登壇された、学部1期生の山仲巖さんの会社を訪ねることを目的に、2024年9月11日・12日の二日間、後援会主催の広島視察を開催しました。

学生たちが提案!

## 山仲さんにプレゼン

山仲さんから事前にいただいたお題は「地方都市や地元で働き定住してもらうには?」。参加学生全員がそれぞれ考えてきたことを、プレゼンしました。

● 若者の悩みを解決できる環境づくりとPR

地方都市で働くことに対してマイナスイメージを持っている人に対する意識改革。PR動画の作成のほか、都市部よりも昇格しやすい環境を企業がつくることも有効。また、ファミリーで転入しやすい環境づくりとして、子育て支援策の充実や子どもの遊び場の設置など、家庭を築きやすい環境をつくり、それをPRしていく方法が考えられる。

3年 村松美那さん



● 地元で住み続けたいと思えるようなアピールを

若い世代が進学・就職時に都市部に転出しないよう、地元の魅力を伝えることが重要。就活イベントなどで、広島で働くことについての魅力を伝えるブースの設置や、広島で暮らすことをテーマにしたパネルディスカッションを開催する。「住みやすさ」の価値観は個人ごとに異なるため、多様な人から地域の魅力を収集し、それを発信していく。

2年 阿部洋鷹さん



● 地方での暮らしを体験できるプログラム

歴史文化や特産品など、ここでしか得られない魅力を伝えることはもちろん、地元企業や地場産業の強化により、雇用機会を創出。「住んでみたい」と思った人、移住を検討している人を対象に「実際に生活の体験ができる」プログラムを実施し、自然環境の豊かさや、生活費の低さなどの住みやすさを実際に短期間でも体験してもらう。

2年 岡田翼さん



● 若手起業家を広島へ! 地元での就職にも繋げる

レンタルオフィス機能を持つインキュベーション施設(起業家や新しいビジネスを支援する施設)の設置や、セミナー・創業スクールの開催を促進。地元企業の紹介、起業応援団への参加を促すフリーペーパーの発行や、交流の強化に取り組むことで、起業者数やオフィス利用者が増加し、地元での就職や企業をする若者が増えるのではないかな。

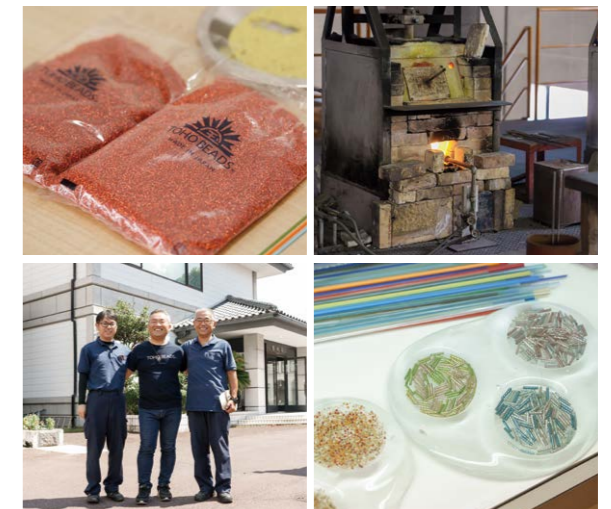
1年 石井洸多さん



TOHO BEADS®

### 人と人の色鮮やかなつながりと 豊かな未来を、ビーズでつなぐ会社。

昭和26年に広島で創業したトーホー株式会社。ガラスビーズの製造・販売を手掛ける企業として、現在では10,000種類以上のガラスビーズを製造し、国内のみならず世界30カ国以上に高品質なガラスビーズを届けています。ビーズ製造だけでなく、服飾・手芸材料の販売やビーズ関連商品の企画・製造・販売なども展開。さらに、廃棄されるガラスボトルを再生しガラスビーズにするプロジェクトや、就労支援事業所とのコラボレーションによるアクセサリブランドの立ち上げなど、社会課題解決にも積極的に取り組んでいます。地域コミュニティの活性化を目指し、イベントの開催など地域に密着した活動も行っています。



トーホー株式会社

〒733-0003 広島市西区三篠町2丁目19-19

<http://www.toho-beads.co.jp/>



広島は幅員が広い道が多く、区画整備のもとに路面電車やバスが走っていて、とても便利で綺麗!

### 2 ひろしまスタジアムパーク エディオンピースウイング広島

Hiroshima stadium park - EDION PEACE WING HIROSHIMA

試合のない日に公園のように活用していること、SDGsを意識した設計や土地利用をしていることなどをお聞きして、とても興味が湧きました。観戦客だけでなく一般の人にも開かれていて、居心地の良い場所だと感じました。



2年 狭石育さん



### 1 広島駅 再開発

Redevelopment of Hiroshima Station



2年 松原拓也さん

地域に根ざしている路面電車をさらに活用して、まちの利便性をよくしていく取り組みが素晴らしいと感じました。自治体だけでなく、いろいろな人が協力することでより良いまちになっていくことがわかりました。



1年 間宮なな子さん

県全体で平和を感じることができる都市づくりが行われていることを初めて知りました。このような機会がなければ意識してることがなかった建物の外観や雰囲気にも注目して感じることができました。

Future 未来 of the faculty of Urban Science

## 広島視察前と視察後のわたしの変化をふりかえる

今回の広島視察では、広島駅前の再開発や、平和を願うまちづくりについても視察を行いました。学生たちが目にした景色や学んだことから、どんな影響を受けたのか、その変化を振り返ります。



路面電車に初めて乗りました!電車やバスから眺めるのとは違った景色で、とても新鮮でした



### 3 原爆ドーム

Atomic Bomb Dome

地域に根ざしている路面電車をさらに活用して、まちの利便性をよくしていく取り組みが素晴らしいと感じました。自治体だけでなく、いろいろな人が協力することでより良いまちになっていくことがわかりました。



3年 山本彩華さん

高校の修学旅行と今回の視察では、自分自身の「まちの見え方」が変わっていることに気づきました



### 4 広島平和記念資料館

Hiroshima Peace Memorial Museum

被爆の惨状を示す写真や、服や手紙といった被爆者の遺品を見て、胸が締め付けられました。多くの人に原爆の恐ろしさや平和の尊さを伝えているのだと改めて感じました。今日日本で平和に暮らしていることに感謝したいです。



1年 毛利雪音さん

来館者が感想等を書き残せる「対話ノート」には、たくさんの言語でメッセージが書いてありました





# Beyond that の先へ of the faculty of Urban Science

学部創立30周年記念 公開講座 パネルディスカッション

## 過去 × 現在 × 未来が交錯する 都市情報学部30年の軌跡

**海道先生** 山本さんと阿部さんは、広島視察はいかがでしたか。

**山本さん** 平和の実現を目指すまちづくりの姿勢を強く感じました。地域ごとに都市開発の着目点異なることを知り、さらに深く学ぶことができました。

**阿部さん** 山仲さんがオープンファクトリーなどのイベントを開催していることを聞き、地元住民に向けた効果的な取り組みだと思いました。

**山仲さん** そもそも都市とは「住む場所」と「働く場所」が融合して、心地いい環境が作られることだと思っています。ひとつのゴールとして“都市をつくる”ような気持ちで、周辺地域へ取り組みを広げています。僕はこれを、30年前にこの学部で学びました。

**前島さん** 30年前も今も、核となる部分で大切なことや学ぶべきことは、変わっていないんですね。

**海道先生** みなさんが、これからの都市情報学部に向けていることは。



**阿部さん** 広島視察もそうですが、フィールドワークや学外のボランティアなどに参加した際に、授業で学んだこととつながる感覚がありました。もっと外に飛び出し、そうした経験を積みたいです。

**山本さん** この学部で、幅広い視点や分析力を活かし、問題解決に取り組む力を身につけてきました。ゼミではプログラミングや数学を通じて論理的思考力の重要性を学びましたが、こうした力は都市の問題だ

パネルディスカッションに  
参加した学生



3年 山本彩華さん



2年 阿部洋鷹さん

けでなく、他の分野にも応用できると感じています。

**山仲さん** この学部であらゆる専門性を学び統合していく力は、今の日本の地域問題解決に大きく貢献できると信じています。

**亀井学部長** 学部設立当初からの理念「未来の都市創造」は、今も変わらず学部の軸であり続けています。日々変化していく都市を見つめながら、40周年、50周年に向けて進み続けていきたいと思えます。

**海道先生** 本日は、ありがとうございました。



パネルディスカッション出演者。左から、海道清信 名誉教授、亀井栄治 学部長、山本彩華さん、阿部洋鷹さん、山仲さん、前島慶子さん。



都市情報学を学ぶ土台をつくり、未来を見据える

## 学部1・2年次で学ぶ ふたつの科目

都市情報学部では、【都市情報学を深く学ぶための土台づくり】と【学部での学びを就職へつなげる】という2つの特色ある科目を、1・2年次で学修します。

1年次の「都市情報学概論」では、学部で開設されるすべての科目の基礎となる知識を習得し、都市情報学の全体像を理解。専門分野への第一歩を踏み出します。

そして、2年次の『キャリアアップ講座』では、実践的な職業研究や就職試験対策を学び、多彩なゲストによる講義を通じて、未来の可能性を広げていきます。



# 都市情報学の輪郭を捉え 学びの礎を築くために

担当の先生  
福島 茂 教授



1年次 前期・後期 | 都市情報学概論 I・II

## 都市情報学の扉を開く 学びの一步目として

「都市情報学概論 I・II」は、都市情報学の全体像を理解することを目的として開講される必修科目で、都市情報学部の26名の教員が1コマずつ担当するオムニバス形式で進行します。それぞれの専門分野の視点から、都市の問題や研究テーマについてわかりやすく解説します。

1年生の段階ではまず、都市情報学の幅広いテーマを把握することで、興味の湧く分野を見つけるきっかけにしてほしいと思っています。この学部は、経済・経営、財政・行政、地域計画、開発・環境、情報・数理といった、多様なバックグラウンドを持つ教員が集結しています。各教員が自らの専門分野の視点から都市を分析することで、都市情報学という新たな学問体系を築き上げることを大きなミッションとしています。講義では、教員が専門分野について話すだけでなく、それぞれが考える「都市情報学とは何か」という探求についても触れていきます。学生はあらゆる学問を広く俯瞰的に捉えるだけでなく、「都市とは何か?」「都市情報学とは?」という問いに向き合う、そのスタートラインに立つための講義です。学び始める前にまず、都市を多角的に捉えるための基礎を築き、自らの関心を見つけることが重要です。

## 都市・地域はフィールド、 情報・数理はツールである

都市情報学部は「都市・地域」と「情報」とを掛け合わせた学問です。都市や地域に関する問題を解決へ導くために、情報を整理・分析し、活用する手法を学びます。都市や地域に関する研究は、都市政策やまちづくり、観光振興、都市サービスなど、多岐にわたるテーマを取り扱います。一方、情報数理は、それらを分析し、効果的な提案を行い、さらには施策の評価を行うための手法として活用されます。都市情報学部の学生は数学やORの専門家を目指すわけではなく、都市や地域の課題を解決するために、情報数理を「応用していく」立場にあります。都市・地域はフィールドであり、情報数理はそのフィールドを深く理解し、より良い形に導くためのツール。都市情報学を学ぶ上で、この関係を明確に理解し、それぞれの役割を意識することも重要です。

### 講座概要

#### 都市情報学概論 I・II

必修科目(専門基礎部門)

開講学年:1年

開講学期:前期・後期(各15コマ)

学部の教員が1コマずつ担当し、自身の専門について解説するオムニバス形式の講義です。受講生が都市に関する諸問題に対する興味や関心を深め、今後の学びへの強いモチベーションを維持できるようにすること、そして「都市情報学」という学問の全体像を理解することを目的としています。



「住みよいまち」を考えるためには、一つの学問領域だけでは限られた視点でしか捉えられません。しかし、複数の領域に触れることで、多角的な視点から考え、より包括的な理解ができるようになります。



持続可能な社会の実現を目指すSDGsの17の目標は、都市情報学部で学ぶ多くの分野と深く結びついています。都市情報学部での学びを通じて、持続可能な未来を考える視野を広げることができます。



「都市情報学部で、どんなことを学んでるの?」と聞かれたときに、自分なりに答えられるようになってほしい。学びが社会にどう役立ち、応用できるのかを考え、それを深めていきましょう。

## 常に広い視野を持ち、 興味・関心を見つける力を

都市情報学部での学びでは、一つの専門分野に閉じこもることはありません。入学後は、経営や財政、環境、まちづくり、情報など、さまざまな分野の基礎を学びながら、それぞれの領域における専門性を少しずつ深めていくことになります。やがてゼミに所属し、特定の分野をより専門的に掘り下げる段階に進みますが、その際に重要なのは、自分の専門性が他の領域とどのようにつながるかを意識することです。異なる分野の知識を統合し、新たな都市情報学の可能性を探る力は、学びを深めれば深めるほど求められます。自分の専門性を伸ばしながら、それを他の領域と結びつけ、より大きな視点で考えられる力を養うことこそが、都市情報学部での学びの醍醐味。その基盤を築くのが、この「都市情報学概論」だと思っています。この講義では、多様な視点を学びながら、「都市情報学とは何か?」という問いに向き合い、自分自身の学びの方向性を見つけていきます。ここで得た知識と視点をもとに、各自の専門を深めながら、やがて都市の未来を切り拓く力へとつなげてほしいと思います。

都市情報学は、幅広い視点を持つ学際的な領域です。入学したばかりの1年生の中には、まだ具体的な関心分野が定まっていない人もいます。まずは多様な分野に触れ「関心を持ってみる」ことから。それが、学びの第一歩だと思います。

## 音を視る、知る、つくる その仕組みと技術を学ぶ

2024年11月29日に開講された鈴木千文助教担当の講義では、音の仕組みや音声生成技術について幅広く学びました。まずは音の発生メカニズムや可視化の方法について、日常の現象を例にとりながら解説。さらに音を波形として視覚的に分析することで、音を科学的に捉える方法を理解しました。次に、音の中でも特に「人の声」に焦点を当て、声がどのように生成されるのかを学びました。さらにコンピューターがどのように音声を合成して人間の声を再現するのか、それがどのように活用されているのかなどを、さまざまな技術や事例を挙げて解説。「音は単なる空気の振動ではなく、情報を伝える大切な手段である」ことを理解し、コンピューターがそれをどのように処理し、再現するのかを考えるきっかけとなりました。

### 講義レポート

# 2年次からはじめる 実践的キャリアデザイン

担当の先生  
杉浦 真一郎 教授



2年次 前期・後期 | キャリアアップ講座Ⅰ・Ⅱ

## 就職活動の“今”を知り、 学ぶための講座

「キャリアアップ講座」は、将来の進路選択や就職活動に向けた意識の醸成を主な目的とした2年次の選択必修科目です。自己分析の方法や業界・仕事研究、就職試験対策などを含む幅広いテーマを扱うことで就職活動に必要なスキルや知識についても実践的に学ぶため、必修科目ではありませんが、9割以上の学生が履修しています。

大卒者向け就職市場にかかわる最新情報を提供するため、就職情報サービス会社にも企画・運営に携わっていただき、授業には、幅広い業種の企業や行政機関の人事担当者や若手社員をゲスト講師としてお招きしています。IT系はもちろん、市役所等の公的機関を含む、まちづくりや地域に関わる企業・団体の方から、それぞれの業界や仕事内容についてリアルな話が聞ける点が、学生から好評です。また、経験値を高めて就活時の自己アピールにもつながりやすい学内外の正課外プログラムを運営する社会連携センターや、大学事務職員の採用を担当する人事課など、学内の協力を得て企画される授業もあります。2年次の段階から進路を考え、希望する進路選択を見据えた就職活動の手厚い準備を始めるきっかけとなっています。

## リアルな就活体験談が聞ける、 座談会が人気

ゲストによる業界・企業説明やインターンシップの意義等に関する講義のほか、自己分析をするワークなど、幅広い内容を扱います。エントリーシートの書き方やSPI対策、公務員試験の最新動向解説、さらに「情報のアンテナを張る新聞の読み方講座」などもあります。学生から特に好評なのは、内定を得た4年生の先輩による座談会です。「先輩学生が語る就職活動」をテーマに、就活を終えたばかりの4年生が3名登壇し、なぜその業界や企業を選んだのか、エントリーした企業数や面接の経験、就活で苦労したことなど、具体的な話を聞きました。先輩からは「2年生のうちにこれをやっておけばよかった」という切実な声も聞かれ、2年生の受講生にとって大きな刺激になっているようです。就職活動を意識し始めるこのタイミングに、さまざまな立場の人の話を広く聞くことは、自身のキャリアについて考える貴重なきっかけになっていると考えています。

### 講座概要

#### キャリアアップ講座Ⅰ・Ⅱ

選択必修科目(専門部門)

開講学年:2年

開講学期:前期・後期(各15コマ)

卒業後の進路選択に向けて、自己分析の方法や業界・企業研究など就職活動にも活かせる実践的なスキルを身につけていく講義です。就活に必要な心構えや社会への理解を深めることで、2年生のうちから職業を意識した準備をします。受講生が進路について自主的に考え、行動を起こせる力を身につけることが目標です。



民間企業との併願も可能な選考方法が採用され始めるなど、近年の公務員試験は大きく変化しています。公務員志望の学生も多いため、最新の公務員試験情報や行政の実務について実践的な知識を得られるよう支援しています。



近年、2年生の夏休みからインターンシップに参加する学生も増えています。企業の採用時期が年々早まっている傾向があり、早期からキャリアを意識する動きが広がっています。



就職活動では、自己分析が非常に重要です。授業内で行うワークでは、学生同士で意見を交換しながら、自分の特性を掘り下げ、客観的に自分を見つめる機会を提供しています。

## 早めの就活スタートが 成功のカギを握る!

就職活動をスムーズに進めるカギは、「自己分析／業界・企業研究／適性検査対策」の3点セットを中心とした良い準備をすること。実践的な知識が身につくと、就活の良いスタートが切れると思います。就職は「どこでもいい」というものではなく、自分の夢や目標を叶え、納得できるキャリアを築くための大切な選択です。自分にとって望ましい就職先や理想的なキャリアを選ぶためには、自己分析を通じて自分の強みや興味を明確にするとともに、業界・企業研究を深めることで、適切な選択ができる力を養うことが重要です。さらには、企業等の選考過程の第一段階に位置づけられることが多い適性検査を突破するための準備を重ねることで、将来の可能性を広げ、より充実した社会人生活への第一歩を踏み出すことができると思います。

名城大学では、ガイダンスや個別相談、各種支援行事など、キャリアセンターによる充実したサポートが用意されており、この科目で得た知識を実践に活かす機会も豊富です。

まだ希望する進路が決まっていない学生も多いかもしれませんが、あらゆる講義や学内外における企業との出会いを通じて、幅広い業界を知り、早い段階から自己分析を進めつつ、自分のキャリアについて考えてほしいと思います。それが、将来の選択肢を広げるための実りある就活に繋がると考えています。そうした知識と経験は、就活だけでなく、その後のキャリア選択や職業生活にも大いに役立つのではないのでしょうか。

## プロの現場から学ぶ 都市づくりの最前線とは

2024年11月5日、「まちづくりや地域にかかわる仕事について」をテーマにした3回シリーズの2回目として、都市開発や地域活性化に携わる企業・団体の担当者をお招きしました。登壇したのは、都市再生や公的賃貸住宅の整備を通じて持続可能なまちづくりを推進する「独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)」と、都市計画・まちづくり・公共空間デザインなどの分野で事業を展開する「日本工営都市空間株式会社」の担当者の方々。業界の役割や業務内容の紹介に加え、まちづくりに関わる仕事の魅力や就職活動のポイントについても詳しく解説がありました。実際に働く先輩社員によるスピーチや、学生との質疑応答も行われ、業界で求められるスキルや仕事のやりがいについてリアルな声を聞く貴重な機会となりました。

### 講義レポート



個性豊かな

# 23

のゼミナール

学生は3年次から、関心のあるテーマのゼミナールに入ります。教授が専門とする学問や特定のテーマについて研究や討論を重ねるゼミ。教授の指導のもと、少人数制で主体的・能動的に学びを深めます。ここでは、都市情報学部の個性豊かな23のゼミナールを紹介します。

PICK UP SEMINARS

## 会計情報と企業経営

企業は様々な利害関係者へ経営状態を開示伝達する責任があります。その会計責任において開示伝達されるのが、企業の会計情報です。経営状態を知るだけでなく、経営のあり方が企業業績にどう反映されているかを分析できます。島田ゼミでは、実際の企業の会計情報を分析することで会計の重要性について理解します。



島田康人教授

経済・経営

島田ゼミナール

## 人文地理学

日本の都市や地域で生じている様々な社会的・経済的現象を、地域差や地域間の結びつきといった地理的視点を変えて考えます。国勢調査などの公的統計のほか、自身によるアンケートや現地調査を通じて得られた様々なデータから地域の実情について把握・分析し、それらを表現(地図化/図表化/文章化)する方法を学びます。



杉浦真一郎教授

経済・経営

杉浦(真一郎)ゼミナール

## 身のまわりの都市問題を数理モデルにより解析する

身のまわりの都市に関するデータを収集・分析し現状を把握し、問題を明らかにします。それらの問題を、数学を用いてモデル化して解くことが目的です。①関心のあるテーマを見つける、②研究をおこなう、③卒業論文を作成する。現実のデータから現状を分析し、都市問題の解決をはかることの重要性を身につけます。



鈴木淳生教授

経済・経営

鈴木(淳生)ゼミナール

## 地域経済学

ゼミではまず、各地方自治体が抱える問題を発見し、問題に対してどのような政策を行なっているか理解します。次に、その政策が適切かどうかを、データを分析することで判断します。最後に、政策の改善点を提案します。根拠を持って自分の意見を主張する力を身につけるとともに、政策を実施する難しさを理解します。



宮本由紀教授

経済・経営

宮本ゼミナール

## 政府や地方自治体の経済活動

政府や地方自治体の財政制度の現状と問題点、その基礎となる理論を理解し、今日的な政策を考察します。そのために、社会的インフラなどの公共支出論、消費税や所得税などの租税論、国の借金については公債論を読み解きます。都道府県や市町村の役割などの地方財政論等を、制度と理論の両面から学習し、理解を深めます。



赤木博文教授

財政行政

赤木ゼミナール

## 社会保障と社会福祉

人は、市場経済という競争原理の中で生涯を生きていかなければなりません。その中で「自分らしく生きる」「生き甲斐を感じる人生を送る」社会の仕組みを考える必要があります。生き甲斐を考えることは、心の視点から物事をとらえること。ふと不安になったり、困難から逃げたりする理由が分かるようになります。



鎌田繁則教授

財政行政

鎌田ゼミナール

## 減災社会の実現に向けた現場力の養成とひと・まちづくり

自然災害による犠牲者ゼロに向けた都市・社会を「まち・ひと・情報」をテーマにデザインします。誰もが災害から安全・安心に暮らすために、被災者や要配慮者に寄り添い、行政・企業・NPOとの協働を通じて具体策を提案します。被災地調査を通じて、自ら都市・社会問題を発見し、問いを立て、解決できる「現場力」を身につけます。



柄谷友香教授

地域計画

柄谷ゼミナール

## 国際関係論

世界中の都市を学び、歩き、言語・文化・社会を学び、都市・地域・国家を理解するゼミです。文献を何冊も読むことで、世界中の都市や、日本との関係などを紐解きます。外国を学ぶことで日本をより深く理解し、外国との架け橋になることができます。ヨーロッパやアメリカ、オセアニア等へ、毎年数名が留学しています。



稲葉千晴教授

財政行政

稲葉ゼミナール

## 公共政策の観点から都市問題を解決する

都市や地域の諸課題を公共的視点から捉え、解決する手法・方策を探求します。心豊かに安心して暮らせる社会の実現には、国や地方自治体の活動が不可欠であり、多くの人々が納得できる公共部門の諸制度のあり方が問われます。公平・公正で効率的な制度のあり方を理論的に検討するとともに、実現可能な政策案を考えます。



手嶋正章教授

財政行政

手嶋ゼミナール

## 都市水利用計画

多くの都市で水道水にトリハロメタンという発がん性物質が検出され、飲用水の安全性が懸念されています。このゼミでは、安全な水を安定的に利用できる都市水環境の構築を目指し、数理解析、人工知能等の情報処理技術を駆使して、飲み水の安全性、平常時・非常時の水確保、水災害に強いまちづくりを追求します。



張昇平教授

地域計画

張ゼミナール

## 観光学・観光動態

「観光立国」を目指す日本。世界遺産等、国内外に誇れる観光資源が増える一方で、COVID-19の逆風や地球温暖化、縮減社会などの課題も抱え、観光を取り巻く環境は楽観視できない状況です。このゼミでは既存の統計資料や現地調査によるデータを分析しながら、観光を活用した長期的かつ持続的な社会のあり方を考究します。



森龍太助教



地域計画  
森ゼミナール

## プロジェクト評価

環境問題をはじめとする都市問題を取り上げ、問題の発見、情報の収集・分析、解決策の提案・評価、成果の発表までを遂行する分析能力とプレゼンテーション能力を習得します。環境政策(カーボン・ニュートラル事業等)、観光政策(オーバー・ツーリズム対策等)、社会資本整備(リニア中央新幹線整備等)の議論も行います。



大野栄治教授



開発環境  
大野(栄治)ゼミナール

## 景観・環境デザイン

都市計画の分野のひとつ「景観・環境デザイン」を研究します。景観とは、環境に対する視覚からの評価です。私たちの生活はすべて環境のもとに営まれ、視覚は環境の影響を大きく受けます。だからこそ、環境を美しく豊かにすることは非常に大切なことです。「心を育む栄養素」は景観として目から摂取されているのです。



亀井栄治教授



情報・数理  
亀井ゼミナール

## 数理計画学 Operations Research

都市の様々な問題・テーマを、数理とモデルという視点、数理計画学、ORなどの手法を用いて考察し、卒業研究の完成を目指します。ゼミ活動や卒業研究を通して、都市や社会に関して自らの問題意識をもとに情報の収集・調査・分析・評価を身に付け、論理的に考察して問題を解決するための姿勢・能力を培います。



杉浦伸教授



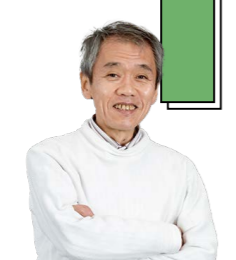
情報・数理  
杉浦(伸)ゼミナール

## 身体環境共生学

フィールドを通して、地域生態学や環境社会学を学びます。環境文化を活かしたまちづくりは、将来、持続可能な社会の形成に繋がります。「教師に頼らない」「Webの情報は疑う」「自ら考え行動する」が、小池ゼミのモットー。Sense of Wonderの心を持ち続け、頭で理解する前に、身体で環境を感じる事が大切です。



小池聡教授



開発環境  
小池ゼミナール

## 21世紀の都市像の理解と計画論

2050年頃までの社会の潮流を読み解き、求められる都市像やあるべき計画論を発想し、実現する方策を考究します。①少子高齢化・人口減少 ②情報化社会 ③グローバル化 ④環境意識の高まり ⑤地方分権化・市民社会に着目。メガトレンドの理解のもとで「あるべきもの」「求められるもの」を発想する力を養います。



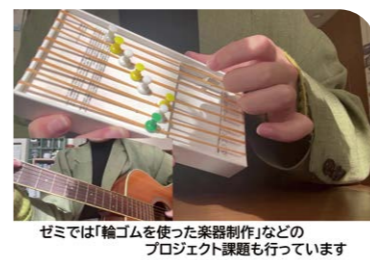
福島茂教授



開発環境  
福島ゼミナール

## 人間行動データの収集・分析・評価

音や画像を対象に、行動に伴って発生する情報や信号の解析・処理技術を学びます。テーマは数学、デジタル信号処理、物理、電気工学、生理学、聴覚、心理、Web技術など多分野。社会を支える情報基盤技術を学び、問題解決のための論理的思考力を獲得することで、問題設定や解決策の提案、実行ができる人を目指します。



西野隆典教授



情報・数理  
西野ゼミナール

## 知能情報処理

身の回りの諸問題を定義して数理モデルという抽象的な構造物として再定義し、これらを分析する力を身につけます。同時に、モデルと現実との違いを認識し、理論や技術と社会との関係について考える力を養います。数理モデルや技術系の文章の書き方はもちろん、C言語やその他のプログラミングについても学びます。



水野隆文教授



情報・数理  
水野ゼミナール

## Think Globally, Act Locally

「地球温暖化問題」を筆頭とするグローバルな環境問題を背景として、地域・都市における交通や防災、インフラ整備のありかた、観光やICTなど経済活性化の立案、エネルギーの安定供給と地方の自然環境保全の両立などを考えます。森杉ゼミの研究方向性を定めるうえで「Think Globally, Act Locally」は重要な道標です。



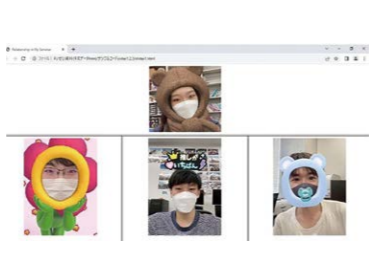
森杉雅史教授



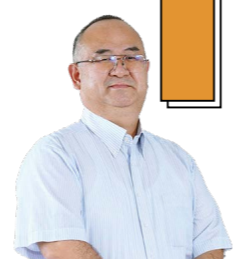
開発環境  
森杉ゼミナール

## Web Programming

Amazonや楽天のようなネットモールの仕組みを学び、オリジナルWebシステムを開発するゼミです。Javaプログラミングによる業務系Webシステム、e-Learningなどの教育系Webシステムの開発技法、Windowsアプリケーション開発技法などを習得します。プログラミング能力とシステム構築力を身につけるゼミです。



宇野隆教授



情報・数理  
宇野ゼミナール

## 応用数学

世の中の様々な問題を、数学と情報技術を利用して解決するための理論と方法について研究します。問題を解くための情報もなく、答えが見つからないケースでも探究していきます。数学的手法を学び、身近な疑問やシステムに対して数学的アプローチを行うことで、この理論と方法が、将来問題解決をする際に役立つはずですよ。



山谷克教授

情報・数理  
山谷ゼミナール

## 地域システム計画

地域づくりに必須である【課題設定→データ収集・社会調査→データ分析→政策立案】の一連を習得することを目指しています。特に、実際の社会と乖離した議論とならないように、実地域を対象に、「様々な手法を用いてデータを処理/分析して、有用な情報(価値)を引き出す」ことを大切にしています。

大野沙知子准教授

情報・数理  
大野(沙知子)ゼミナール

16 教育の窓 | 個性豊かな23のゼミナール

SEMINARS 17

## 音・音声の分析・評価

身の回りにある音や、人の声である「音声」を対象に研究しています。興味のあることをテーマとし、課題に自主的に取り組むことを目的としています。研究には、音響学の知識やMATLABのスキルが必要になります。これらはこれまで習ったことがない分野なので、自主的に知識やスキルを習得する姿勢が重要です。



鈴木千文助教



情報・数理  
鈴木(千文)ゼミナール

## ここでの様々な出会いを大切に

私が「地方自治・まちづくり」の仕事(当時の自治省・現総務省)を選び、その後「地方自治・まちづくり」を研究対象とする大学(名城大学都市情報学部)の研究者となったのは、大学時代に杉村敏正京都大学教授(行政法)に巡り合い、杉村ゼミで「地方自治・まちづくり」という分野のおもしろさ、奥深さを知ったからです。

学生時代の恩師との出会いが、その後の人生に大きな影響を与えることもあります。ゼミでの先生との出会い、友人との出会いを大切にしたいと思います。

都市情報学部 昇 秀樹



退官にあたり学生へのメッセージ

※ 若林拓教授は休職中、田口純子准教授は在外研究中(2024年度)

# SEMINAR REPORTS

ゼミナールレポート 2024

2024年12月24日、クリスマスイブの日にこの原稿を書いています。

「クリスマスイブまでに卒論を仕上げよう」が昇ゼミのモットーですので、ゼミ室と昇の研究室は熱気ムンムンです。

「この論理展開はおかしいだろう。書き直し」  
「こういう主張をするためには証拠、データ不足。証拠、データを探してきて」

容赦ない教授のゼミ生の卒論への攻撃が飛びます。

ゼミ生も負けてはいません。

「先生、これはそういう意味ではなく、こういう意味です。先生の読み方が間違っています。」

「この問題についてはこれ以上データはありません。神に誓って断言できます。」

毎年のごとくではありますが、ミサもケーキもなく、こういう熱気の中で、昇ゼミのクリスマスは過ぎていきます。

昇秀樹ゼミナール

1

小池聡ゼミナール



2

3年生は、生物・農業・統計に関する教養演習、『農のある人生』など3冊の基本文献研究、そして専門教科の学習あるいはそれと同等の専門基礎演習に取り組みました。また、学外実習として、可見市我田の森、瀬戸市海上の森、安城市榎前集落(写真参照)および「アグリパーク安城・ファミリー農園」(市民組織「耕し人」が運営)、および岡崎市の有機農業塾圃場、NPO法人おかさき農遊会が運営する市民農園等を訪問し、里山の環境、農業環境の整備、農業への市民の関わりについてそれらの実態を学びました。

4年生は、各自次のテーマの卒業研究に取り組みました。「名古屋圏における観光農園のオーガニック戦略」「中山間地域の振興に対する地域おこし協力隊員の認識と評価」「都市農業に関する最新の研究動向」「遊休農地に関する近年の研究動向」です。

そのほか、一宮市での6年間にわたる調査研究の成果を報告書(『遊休化する生活農地と市民の農業-愛知県一宮市における事例研究-)にまとめ、ご協力いただいた「はつらつ農業塾生の集い」の方々に配布しました。

福島茂ゼミナール



ゼミ旅行で福井県へ。永平寺にて記念写真

4

ゼミにて、統計学の輪講、統計ソフト実習を行ってきました。7月の都市情報学部オープンキャンパスでは、模擬ゼミを実施しました。



統計ソフト実習 / オープンキャンパスで実施した模擬ゼミ

5

島田康人ゼミナール

島田ゼミナールでは会計学と経営学を中心に日々学んでいます。3年生は、会計学のテキストを用いて会計理論について理解を深めました。また、4年生は、経営の様々な事例を学んだのち、卒業論文の作成に本格的に専念し論文を完成させました。



卒業論文を作成する過程での議論の様子

3

3年生は、南信州フィールドスタディに参加し、他大学の学生や地元高校生と一緒に飯田のまちづくりと社会関係資本について学びました。また、Z世代のサードプレイスについてリアル・オンライン双方の観点から調査しました。4年生は、「地域SNS」「ニュータウン再生」「創発的コミュニティ」「防災と官民連携」「商業施設とコミュニティ拠点」「屋上庭園」「持続可能な観光まちづくり」「Z世代の観光行動」「私発協働まちづくりと社会関係資本」など多様なテーマで卒論に取り組みました。

西野隆典ゼミナール



卒論発表会の様子 / 輪ゴム楽器発表会 / 卒論発表会表彰後

6

2024年度のテーマの一つは「well-beingと観光」です。『人がなぜ観光(非日常の行動)を行うのか』という疑問から発展し、人は日常では幸せが足りておらず、非日常の行動を行うことによって幸せを満たそうとしているのでは?という仮説を立てました。岐阜県中津川市を現地調査し、アンケート設計の視点を取得。アンケートでは、日常と非日常の2つの枠組みに分けて対照的な質問をすることで、違いを知ることになりました。221名の回答結果から、日常の満足度(well-being)の平均は71点であること、日常で大切にしていることは圧倒的に「美味しいごはん」とする人が多く、非日常では「美しい景観」も大切であることがわかりました。そして講義やゼミナールで学んだ因子分析やクラスター分析などの多変量解析を用いて、日常と非日常の違いを明らかにすることができました。



現地調査の様子 / 調査のまとめの様子

7

大野沙知子ゼミナール

2024年度 専任教員の専門分野と主な研究テーマ

| 分野    | 教授名        | 専門分野                        | 研究テーマ  |
|-------|------------|-----------------------------|--|
| 経済・経営 | 島田 康人 教授   | 管理会計・経営分析                   | 投資と企業経営の分析   |
|       | 杉浦 真一郎 教授  | 人文地理学                       | 地方行財政に関する地理学的研究  |
|       | 鈴木 淳生 教授   | 数理ファイナンス・金融工学・オペレーションズ・リサーチ | デリバティブの価格付け、都市の OR   |
|       | 宮本 由紀 教授   | 地方財政・都市経済学                  | 子育て支援政策に関する実証分析  |
| 財政・行政 | 赤木 博文 教授   | 財政学・公共経済学                   | 社会資本形成に関する理論的および実証分析、税制のあり方  |
|       | 稲葉 千晴 教授   | 国際関係論・国際政治史                 | 国際政治史、日露関係史、北欧現代政治、情報と国際通信   |
|       | 鎌田 繁則 教授   | 社会保障論                       | 生活者のための社会保障  |
|       | 手嶋 正章 教授   | 公共政策学・経済政策学                 | 地域情報化政策に関する研究、地域政策とまちづくり、財政問題と政策論  |
|       | 昇 秀樹 教授    | 行政学・行政法・政治学・地方自治論 等         | 地方分権の課題と展望、まちづくりの手法、自治体の政策形成、地方自治法解説、地方公務員法逐条解説  |
|       | 柄谷 友香 教授   | 都市防災計画・リスクコミュニケーション         | 防災・減災社会の実現に向けたひと・まちづくり<br>広域巨大災害からの被災地の復旧・復興プロセスの解明  |
| 地域計画  | 張 昇平 教授    | 都市水文学・水利用計画                 | 水資源開発計画と水資源管理、都市水環境システムの解析および制御、<br>湧水と水供給の安定化   |
|       | 若林 拓 教授    | 交通工学・交通計画                   | 交通システムの信頼性向上に関する研究、災害時の交通計画、道路案内標識の<br>経路誘導効果の評価   |
|       | 田口 純子 准教授  | 建築教育・都市環境教育                 | 建築・都市・まちに関する創造的学習、生涯学習（子ども教育、市民教育）<br>プロジェクトデザイン、ワークショップデザイン   |
|       | 森 龍太 助教    | 観光学・観光動態・環境経済評価             | 観光資源の保全と開発<br>観光価値（レクリエーション価値）の計測・評価手法の開発<br>温暖化による観光地への影響と対策の検討・評価手法の開発   |
| 開発・環境 | 大野 栄治 教授   | 土木計画学・プロジェクト評価              | 公共事業の費用便益分析、環境政策・観光政策の経済評価   |
|       | 小池 聡 教授    | 農村計画学                       | 農村地域政策の分析と評価   |
|       | 福島 茂 教授    | 都市計画・地域計画・住宅政策              | 社会経済環境の変容に対する都市計画・居住政策のあり方／グローバル経済<br>における地域開発戦略、産業立地をめぐる国際地域間競争／持続可能な<br>地域づくり：Learning Region アプローチとコミュニティエンパワメント                            |
|       | 森杉 雅史 教授   | 環境経済分析・土木計画学                | 地球温暖化の被害予測と適応策インフラ事業の経済的評価<br>再エネ・交通・観光と地域経済の活性化<br>耐久財的防災グッズの普及と日米比較  |
| 情報・数理 | 宇野 隆 教授    | 数学・確率論・情報科教育法               | 確率多項式に関する研究、従属確率変数の極限定理に関する研究  |
|       | 亀井 栄治 教授   | 景観計画・環境デザイン・都市計画            | 景観計画・環境デザインにおける分析・評価手法に関する研究   |
|       | 杉浦 伸 教授    | オペレーションズ・リサーチ<br>応用数理       | 数論的意思決定に関する理論的研究<br>オペレーション・リサーチ、応用数理による都市問題の分析  |
|       | 西野 隆典 教授   | 立体音響・音信号処理                  | 三次元音響の収録と再生に関する研究<br>音声・音響信号を用いた人間と機械とのインタフェースに関する研究   |
|       | 水野 隆文 教授   | 知能情報システム工学                  | スマートコントラクトを含むビジネスモデルの設計、フロントエンド環境で動作<br>するルールベースシステムの開発、AI システムの経済価値の評価、大規模デー<br>タベースシステムの構築、複雑系ゲームマシンの解析、知識の単一化と一般化<br>を行うアルゴリズムの開発、感性データの可視化 |
|       | 山谷 克 教授    | 応用数学・数値計算                   | 画像や音楽に含まれる幾何学的特長を用いた効率の良い情報削減方法の考案   |
|       | 大野 沙知子 准教授 | 土木計画学・地域計画                  | 新たなモビリティの社会的形成に関する研究／地域協働型インフラ管理に関す<br>る研究／災害復興における支援のあり方に関する研究  |
|       | 鈴木 千文 助教   | 音・音声信号処理                    | 歌声の類似度評価に関する研究／歌手の個人性の解明に関する研究   |

2024年度 研究実績

※敬称略

**大野 栄治** 論文 Mamoru FUJITA, Eiji OHNO and Ryuta MORI/Feasibility Study on Renewable Energy Project using the Biogas Power Generation System and Grass Collected through Community Clean-up Activities/63rd ERSA Congress/The European Regional Science Association (ERSA)/Vol.63/2024/G37-02 (17p)/査読無  
論文 森真大・杉浦伸・大野栄治・大野沙知子/名古屋市の都心ゾーン内における自転車の経路選択行動分析/土木計画学研究・講演集/土木学会/Vol.70/2024/51-03 (5p)/査読無  
論文 藤田衛・大野栄治・森龍太/地域清掃活動と連携した住民参加型バイオガス発電事業の実現可能性の評価/土木計画学研究・講演集/土木学会/Vol.70/2024/51-07 (4p)/査読無

**柄谷 友香** 論文 柄谷友香・内山登紀夫・川島慶子/原発避難に伴う発達障害児とその母親に対する保健師の対応と課題/地域安全学会東日本大震災特別論文集/No.13/2024/pp.35-38  
論文 柄谷友香/能登半島地震における自治体応援職員派遣の実態と課題/防災学術連携体・令和6年能登半島地震7ヶ月報告会/2024/pp.35-38

**小池 聡** 論文 小池聡/都市農業振興における市民農業塾の社会的意義に関する人間学的研究/都市情報学研究/名城大学/29/2024/21-32/査読有  
著書 小池聡/ゼミナール/遊休化する生活農地と市民の農業-愛知県一宮市における事例研究-報告書/名城大学都市情報学部/2025年1月/50ページ  
論文 小池聡/おかざき農遊会の原点と「直耕」の思想/NPO法人おかざき農遊会会報/NPO法人おかざき農遊会/53/2024/13-15/査読無

**森杉 雅史** 論文 K. Kawamoto, M. Morisugi, Eric Y. Yamashita, 'The Network Resilience of Safety Confirmation and Social Capital during Natural Disasters: the Comparison of the U.S. and Japan', Discover Sustainability, Volume 5, article number 27, Open Access, 2024.

**杉浦 伸** 論文 Shin SUGIURA, Akiko SUGIURA/Perspective of Using Analytic Hierarchy Process in the Procedure of Conjoint Analysis/International Journal of Affective Engineering/Japan Society of Kansei Engineering/Volume 23, Issue 2/2024/87-93/査読有

**張 昇平** 論文 Shengping Zhang and Jie Qi/A RIVER ENVIRONMENT RELATIVE COMPARISON MODEL BASED ON THE RANKING USING MULTIPLE WATER QUALITY INDICATORS/International Journal of GEOMATE/THE GEOMATE INTERNATIONAL SOCIETY/Vol.27.No.121/2024/95-102/査読有  
論文 加藤大雅・張昇平/愛知県内における老人ホームの浸水危険性に関する調査研究/都市情報学研究/名城大学都市情報学部/No.29/2024/81-84/査読無  
論文 Shengping Zhang and Jie Qi/IDENTIFYING THE MOST EFFECTIVE MEASURES FOR RIVER ENVIRONMENT IMPROVEMENT USING AN ARTIFICIAL INTELLIGENCE MODEL/Proc. Of the 14th Int. Conf. on Geotechnique, Construction Materials & Environment/The Geomate International Society/ISBN 978-4-909-106-11-7 C3051/2024/350-355/査読有

**西野 隆典** 論文 野々山大樹, 鈴木千文, 西野隆典/声質変換手法を用いた自己聴取音声における評価の検討/日本音響学会関西支部第27回若手研究者交流研究発表会/2024/査読無  
論文 早川達也, 石黒祥生, 大谷健登, 西野隆典, 武田 一哉/SyncSight: 空間情報把握支援のための2D地図と3D都市モデルの組み合わせ表示/情報処理学会シンポジウム インタラクション2025/2025/査読有

**福島 茂** 論文 福島 茂/災害復興を巡る国内議論と国際防災協力/SRID News Letter/国際開発研究者協会/No.540/2024/1-2/査読無  
論文 福島 茂/シンガポール:世界クラスの都市実現と制度基盤/アーバン・アドバンス/名古屋都市センター((公財)名古屋まちづくり公社)/83号/2025/p.35-44/査読無

**田口 純子** 論文 Takeshi Nishimura, Junko Taguchi, Terukazu Kumazawa, Kengo Hayashi/Virtual play and real connections: unpacking the impact of rice farming simulation video games/Frontiers in Computer Science: Human-Media Interaction/Frontiers/6/2024/頁数なし https://doi.org/10.3389/fcomp.2024.1392862 /査読有  
論文 Junko Taguchi/Developing Advocacy Capacity in Teenagers Towards Equitable Urban Landscape/Prometheus/IIT College of Architecture PhD Program/7/2024/121/査読無

**大野 沙知子** 論文 大野 沙知子/高齢者の移動支援と地域包括ケアシステムの連携/社会福祉研究/公益財団法人鉄道弘済会/第149号/2024/p.9-p.18/査読無

**鈴木 千文** 論文 鈴木千文/ビブラート歌唱音声における基本周波数の微細変動の増減処理によるビブラート合成音の作成/都市情報学研究/No.29/2024/pp.33--37/査読有  
論文 鈴木千文, 坂野秀樹, 旭 健作/歌唱音声の基本周波数に含まれる微細変動の有無が自然性に与える影響の調査/日本音響学会秋季講演論文集/日本音響学会/2024/pp.1237--1238/査読無  
論文 鈴木千文, 坂野秀樹, 旭 健作/基本周波数に含まれる微細変動を除去した歌唱音声合成音の作成と自然性の評価/日本音響学会春季講演論文集/日本音響学会/2025/査読無

優秀卒業論文(令和6年度)

| ゼミナール  | 氏名    | 題目  | ゼミナール  | 氏名     | 題目   |
|--------|-------|---|--------|--------|--|
| 島田 康人  | 榊原 光浩 | SaaS業界における先行投資経営と「成長」の指標                              | 森 龍太   | 足立 依美奈 | 明方ハムと明宝ハムの商品選択における要因の検討                    |
| 杉浦 真一郎 | 山森 唯矢 | 商業地および住宅地における最高地価点と鉄道駅との距離からみた都市構造の変容                 | 大野 栄治  | 秋原 彩名  | 名古屋市におけるウォークアビリティ実現のための政策提言                |
| 鈴木 淳生  | 山口 尚樹 | NBAとBリーグの勝利数に関する最適なスタッツについての統計的分析                     | 福島 茂   | 近藤 弘基  | 私発協働を生みだす地域社会とは――長野県飯田市の事例から――             |
| 宮本 由紀  | 縦縞 愛海 | インクルーシブ教育の実現に向けた国際比較～アメリカ・イタリア・フィンランドの事例と日本への応用～      | 森杉 雅史  | 片山 佑太  | 担い手への農地集積が持続可能な農業に与える効果                    |
| 稲葉 千晴  | 小川 廉祐 | 戦後の日中外交関係   | 亀井 栄治  | 木全 悠歌  | 街路樹が歩行者と運転者に与える印象に関する研究                    |
| 鎌田 繁則  | 木全 頌  | 豊橋市の子育て支援政策について                                       | 杉浦 伸   | 渡邊 滝大  | 2024年の日本と米国の売上上位30社の企業ロゴ調査                 |
| 手嶋 正章  | 渡邊 翔音 | 生成AIがもたらす繁栄と混乱一人はどう在るべきかー                             | 西野 隆典  | 柿元 康希  | モバイルネットワークの通信環境と画質、普及状況を観点とした画像フォーマットの評価   |
| 昇 秀樹   | 北折 幸平 | 桃花台ニュータウン再生計画   | 水野 隆文  | 棚橋 美桜  | 複数の評価における感性情報の可視化                          |
| 柄谷 友香  | 相川 七海 | 水害における垂直避難が困難な 高齢者・障がい者施設の防災の実態と課題<br>ー中川区一色中学校区を対象にー | 大野 沙知子 | 鈴木 貴博  | モノへのアプローチ 購入欲向上のための空間・音・音楽に着目した環境づくり       |
| 張 昇平   | 中村 瑛馬 | iRICを用いた小規模河川の洪水予測と氾濫解析                               | 鈴木 千文  | 粕谷 律心  | 声優の経年変化によらない発声を目的とした発声訓練支援のための加齢に伴う声の変化の調査 |

社会基盤を支える  
誇りを胸に  
小さな挑戦から、  
大きな未来を。

## 卒業生の今

Voice of Meiji OB/OG

Vol.7

## 水谷 昌永さん

2021年度卒業 / 稲葉ゼミナール

### 水谷 昌永さん

2021年度卒業 / 稲葉ゼミナール

勤務先：

#### 株式会社竹中土木

名古屋支店営業部

営業企画グループ



#### 株式会社竹中土木

東京都に本社を置く、竹中工務店グループの中でも、土木専門の総合建設会社（ゼネコン）。ダムや鉄道、道路やトンネル、橋、上下水道といった、幅広く土木の分野の建設事業を担う。

### 官庁工事の入札業務を担当 数百億規模の大規模案件も

私は現在、株式会社竹中土木に勤務し、主に官庁工事の入札業務に携わっています。入札説明書の読み込みや申請書の作成、さらに入札から開札後の手続きまで幅広く担当しています。担当する案件は数十億、中には数百億円規模の土木事業もあり、一件の受注のために多大な労力を要します。責任はとても大きいですが、無事に案件を獲得したときは、何にも代え難い大きな達成感があります。

竹中土木は、社会全体に必要な不可欠なインフラを担い、土地区画整理や災害復旧事業などの実績を多く有しています。災害大国である日本で、人々の暮らしの安全や快適さを守ることに携わりたいと思い、この業界を志しました。業務を通じて、社会基盤を支える仕事の重要性を日々実感しています。

### 大学時代に部活で培った チームワーク精神

高校から大学まで続けたラグビーは、今の働き方や価値観に大きな影響を与えています。名城大学ラグビー部に所属し、チームのために何ができるかを常に考えてきました。特に印象に残っているのは、ニュージーランドへのラグビー留学です。留学先で経験した異文化交流やチームスポーツを通じて、国や文化が異なっても連携して目標を達成する大切さを学びました。

現在の職場でも、このチームワーク精神が活かされています。入札業務は一人では完結しません。多くの部署や関係者との連携が必要であり、ラグビーで培った「チーム全体を見て、それぞれのポジションを全うする」姿勢が、プロジェクトの成功に大きく貢献します。また、大規模な案件を落札できたときの達成感や喜びをチーム全体で共有する瞬間は、学生時代の試合の勝利と重なるものがあり、私はこうしてチームで何かを成し遂げることが好きなんだと、改めて感じています。



### 先生に背中を押してもらえた ことが、今につながっている

都市情報学部を選んだ理由は、文理融合で幅広い分野を学べる点に惹かれたからです。在学中、ExcelやWordといった基本スキルから、データ分析や土地区画整理事業など専門的な知識まで幅広く学ぶことができました。働き始めてから「あの先生が言っていたのは、こういうことだったんだ」と改めて理解できたこともたくさんありました。

大学時代は、国際関係論をテーマにした稲葉ゼミに所属していました。稲葉ゼミでは、グローバルな視点で都市や社会問題

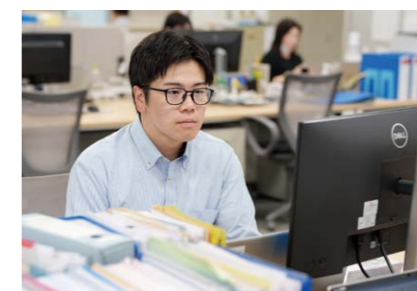
を考える機会が多く、ラグビー留学を決断したのも稲葉先生からの後押しやサポートがあったおかげです。留学中、2011年のニュージーランド地震の被災地を訪れた際、「復興に携わる土木の力」に感銘を受けたことが、現在のキャリアを目指すきっかけにもなりました。

またゼミではプレゼンテーションやディスカッションを通じ、多様な意見を受け入れる大切さを学びました。この学びは、現在の仕事でクライアントや関係者の多様な要望を汲み取り、最適な提案を行う際に役立っています。視野を広げていくことの大切さ、挑戦を続けていくことの大切さを、稲葉先生から学びました。



### さらに高みを目指して ずっと挑戦を続けていきたい

入札業務は、少しでも提出資料にミスがあると無効になってしまいます。関係部署とのコミュニケーションを密に取って、二重三重の確認をして進めるように心がけています。現在はさらなるスキルアップを目指して、新たな資格の取得に向けて勉強中です。建設業に関する知識をさらに深め、チームで活躍できる人になれるよう、宅地建物取引士や土木施工管理技士などの資格取得に挑戦しています。技術的な知識を身につけ、さらに経験を積んで、チームの一員として大規模なプロジェクトを成功に導けるよう、日々の業務や学びを通じて成長し続けていきたいと思っています。



## 先輩からのメッセージ

Message

学生生活は、日々忙しく感じるかもしれませんが、実は「自分が見つめることができる環境」があり、「挑戦する時間」が最も豊富にある時期だと思います。私自身も都市情報学部で、先生方やキャリアセンターの方など、多くのサポートを受けながら、さまざまな挑戦してきました。特に留学やゼミを通じて得た経験は、今の私の基盤となっています。ぜひ、自分の可能性を広げるために、失敗を恐れずにさまざまなことに取り組んでほしいと思います。

都市情報学部には、大切な一歩を踏み出せる環境が整っていると思います。ぜひ、学生のうちにたくさん挑戦してください。



Masanaga Mizutani



都市情報学部4年

稲垣 佑花里さん

内定先  
株式会社メイテックコム

## 興味を持ったIT分野を活かして 地元で貢献できる人になりたい

私は名古屋市出身で、幼少期から地元への愛着があったので「地元で貢献する仕事に就きたい」と考えていました。最初は公務員志望でしたが、1年のときに参加したCBML<sup>※</sup>での経験と、講義でIT分野に触れたことで「地域に届け込んで、ITを通じて地元で貢献したい」という新たな目標ができ、就活の軸が決まりました。キャリアセンターで助けていただいたエントリーシートの作成を通して、自分の考えを的確に伝える力がついたと思います。4月からは、地域の生活を支えるシステムエンジニアとしてのキャリアがスタートします。大学で得た知識や地域の方と触れ合った経験を生かし、名古屋の発展に貢献できるよう、自分にできることを積み重ねていきたいです。

※CBML(Community Based Machizukuri Learning) … 地域と協働し、まちの課題を発見・検証して解決に向けて取り組む、学生主体の実践型教育プログラム

### 気になるホントの就職活動体験談

## 先輩に聞いてみた!

JOB HUNTING STORY OF SENIOR



## 学部で防災について学び 長年の夢を叶えて消防士に

幼少期からずっと、将来は消防士になりたいと強く思っていました。都市情報学部は防災の講義やゼミがあると知り、それが決め手で入学しました。1年から「名古屋市大学生消防団」に所属し、市内の学生と一緒に市の防災活動に関わってきました。2年から公務員試験の勉強をスタートし、3年の4月からは大学の公務員講座の受講を開始しました。学部での講義では、実際に東日本大震災の被災地へ向かった先生の貴重な体験談を聞いたり、ゼミで消防に関する研究を進めたりと、学びや経験を深めたことが、今の自分につながっています。これからは、どこまでも市民に寄り添いながら人々の生活を守り、地域に安心を与えられる消防士になりたいと思います。



都市情報学部4年

宮西 晃平さん

内定先  
名古屋市消防局

### 名城大学就職支援の特徴

#### 01. 1～4年次までの個別指導担当制

1年次から内定を得るまでの4年間にわたり、いつでも気軽に進路・就職相談ができる体制をとっています。学生の悩み・就職意識も千差万別で、個別指導・相談体制は非常に重要なものとなっています。

#### 02. 進路支援講座 1・2年次対象

早期からのキャリア観醸成を目的に、1・2年次にキャリアガイダンス、2年次にプレ就職ガイダンスを開催。卒業後にどんな人生を過ごしたいかを考えるきっかけを提供しています。2年次後期からは具体的に自己分析を進めるために、適性検査や自己分析講座を実施。学内企業研究セミナーなどとあわせて、社会や企業と触れる機会が数多くあります。

#### 03. インターンシップ支援も充実

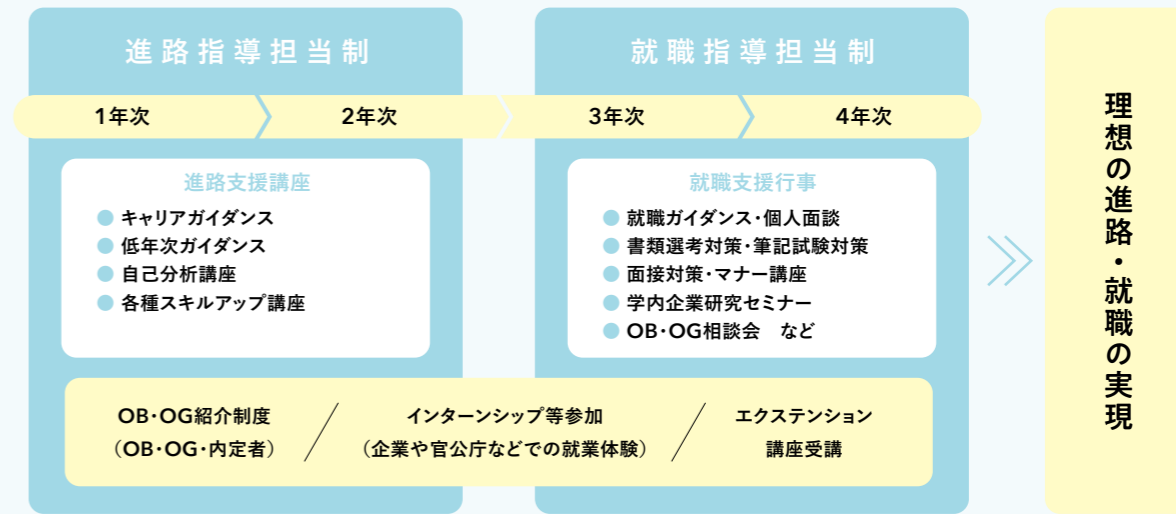
近年重要性を増しているインターンシップ等の参加支援、また、その効果を最大化するための講座を実施しています。応募・選考のための書類対策講座や名城生の採用意欲の高い企業のプログラム紹介など充実した支援を行っています。



#### 04. 就職支援行事 3・4年次対象

「就職ガイダンス」の実施および2023年からは本学独自の自習ツール「Career .Lab.」を展開。適切なタイミングを考慮した情報提供と学生が各自の進行段階に合わせてレベルアップを図れる体制を整えています。さらには「筆記試験対策」「履歴書・エントリーシート対策」「マナー・面接対策」といった各種講座、年間800社以上もの企業が参加する東海地区最大級の「学内企業研究セミナー」などを開催しています。そして、名城大学の就職支援の大きな特徴である個別指導担当制による「個人面談」では、大規模大学には珍しい学生個人に対する担当職員が相談しやすい関係づくりに努め、就職活動をサポートしています。また、就職先が決定した4年生および本学卒業生が体験を通じて後輩にアドバイスなどの支援をする「OB・OG紹介制度」や、エアライン業界への就職をサポートする「エアライン就職サポート【M-CAP】」などを含め多彩な学生支援プログラムを実施し、学生が納得した進路決定ができるよう、支援のさらなる充実を図っています。

段階に合わせた就職支援の取り組み



### 2025年3月卒の就職動向(6月1日現在)

#### 採用数は増える見込みも、 採用基準は緩まない

2025年3月卒(25卒)学生に対する採用予定数の見通し平均32.1人(昨年31.5人)と昨年に比べて0.6人増加し、企業の採用意欲は増加傾向にあります。一方で採用基準は「24卒並み」とする企業が78.3%、「厳しくなる」は9.3%、「緩くなる」は6.4%となっています。企業の採用意欲や求人数からは前年より学生優位に見える状況でも、簡単に内定を獲得できるわけではありません。自身の強みを理解し、それを相手にしっかり伝えるための準備が必要です。

※就職みらい研究所「就職白書2024」2024年4月24日

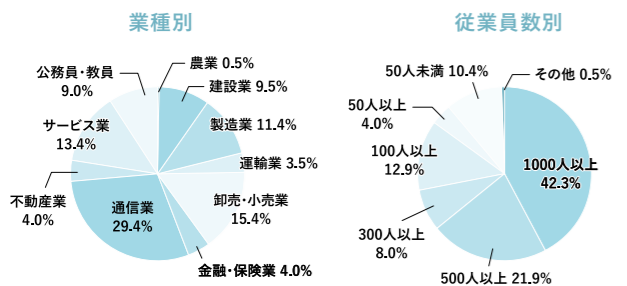
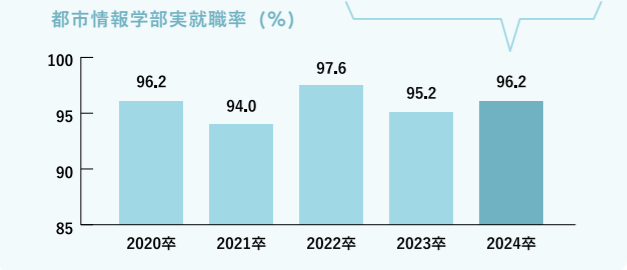
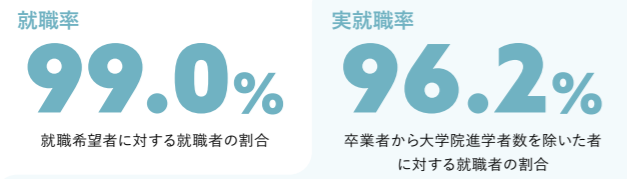
#### 内定率は8割に迫るも 半数近くが現在も就職活動中

25卒学生の内定率は、6月1日時点で82.4%(昨年79.6%)と昨年に比べ2.8ポイント高く、6月選考解禁となった2017年以降最も高くなりました。一方で就職活動実施率は36.6%の学生が就職活動中であり、また、内定取得者の26.2%が就職活動を継続していることがわかりました。

※就職みらい研究所「就職プロセス調査(2025年卒)-2024年6月1日時点 内定状況」2024年6月6日

## 都市情報学部 就職状況

2024年3月卒



文部科学省・厚生労働省の調査では、2024年3月卒業(24卒)の大学生の就職率(就職希望者に対する就職者の割合)は98.1%で、本学都市情報学部の就職率は、その平均値を0.9ポイント上回り、99.0%となりました。都市情報学部の実就職率(卒業生から大学院進学者数を除いた者に対する就職者の割合)は96.2%で(昨年95.2%)で1.0ポイント増加となり、去年に引き続き、高水準を維持しています。就職以外の者は13人おり、5人が大学院進学、1人が留学、2人が専門学校等への進学、1人が公務員、国家資格等を志す者です。それ以外の4人(昨年7人)はアルバイト等です。

**業種別** 昨年と比較し、農業が0.5増、建設業が1.4増、製造業が0.2増、運輸業が2.1減、電気・ガス業が0.5減、卸売・小売業が1.9減、金融・保険業が0.4増、通信業が5.0増、不動産業が1.5増、サービス業が6.4減、公務員・教員が1.9増でした。

**従業員数別** 従業員の規模別では、500人以上の大企業への就職は合計で64.2%でした。昨年から1.6増となり6割以上の学生が500人以上の大企業へ就職しています。

## 都市情報学部 主な就職先 30社

(2024年4月入社)

|              |             |                   |
|--------------|-------------|-------------------|
| 旭化成ホームズ      | 旭情報サービス     | 伊藤忠テクノソリューションズ    |
| ANAエアポートサービス | ATグループ      | NSD               |
| ジェイアール東海高島屋  | システムリサーチ    | 十六銀行              |
| スズケン         | 住友不動産販売     | 大和ハウス工業           |
| 竹中工務店        | 中電シーティーアイ   | トーエネック            |
| トヨタシステムズ     | トヨタ紡織       | 名古屋銀行             |
| ニトリ          | フジパングループ本社  | 三菱電機ソフトウェア        |
| 山善           | リンナイ        | 法務省               |
| 愛知県庁         | 大垣市役所       | 津市役所              |
| 浜松市役所        | 独立行政法人水資源機構 | 国立大学法人職員(名古屋工業大学) |

※民間企業は五十音順で掲載

## 後援会定期総会

令和6年5月11日(土)、令和6年度都市情報学部後援会【定期総会】を開催いたしました。令和5年度の事業報告・決算報告、令和6年度役員・事業案・予算案について審議し、すべての議案について過半数の賛成をもって可決されました。総会終了後はご父母向けに、教務・学生生活・就職・大学院についての説明会を行いました。

## 父母懇談会

令和6年10月26日(土)、都市情報学部後援会主催【父母懇談会】を開催いたしました。前半は総会に参加できなかったご父母向けに再度教務・学生生活・就職・大学院についての説明会を行うとともに、9月に広島視察に参加した学生による報告発表も行いました。後半は、1・2年生のご父母は教員・視察参加学生を交えたグループ懇談、3・4年生のご父母はゼミ指導教員との個別懇談を行いました。

## 父母懇談会アンケートより

本人まかせになりがちですが親の意識の再認識の場になりました(2年親)

エクステンション講座等就職活動の話にもう少し時間を割いて欲しい(2年親)

就職活動の説明を聞いて今後子どもと話を進めたいと思う(1年親)

短時間で大学全般に渡り網羅された内容で大変わかりやすかった(2年親)

学生さんによるプレゼンと素直な気持ちが聞けて大変良かった(1年親)

就職活動、大学院について聞くことが出来てよかったが、もう少し時間があつたら尚良かった。就職担当の職員の方からいろいろお話を聞きたい(3年親)

子どもが「私語の多い講義が多く集中できない」と言っている。学びたい意欲を欠かさない対応をして頂きたい(1年親)

ゼミの先生との面談ができるのはよい(3年親)

|                           | 役職    | 役員氏名  |
|---------------------------|-------|-------|
| 令和6年度<br>都市情報学部後援会役員(敬称略) | 会長    | 岩田 大介 |
|                           | 副会長   | 鬼頭 ゆり |
|                           | 会計監査  | 足立 和美 |
|                           | 会計監査  | 尾口 正樹 |
|                           | 役員    | 渡邊 和代 |
|                           | 役員    | 福田 寛子 |
|                           | 役員    | 岡田 正一 |
|                           | 役員    | 井上 秀樹 |
|                           | 役員    | 鈴木 久美 |
|                           | 役員    | 塚本 健夫 |
| 役員                        | 丸山 芳生 |       |
| 役員                        | 林 政男  |       |

## 2025年度 都市情報学部 後援会補助制度のご案内

※2025年度より制度の一部を変更させていただきます

資格試験等受験料補助制度について

より多くの都市情報学部生の皆さんが資格取得を目指して各種検定試験にチャレンジすることや、資格取得が自信となって就職活動・キャリアアップに繋げることを期待し、各種資格試験等受験料の全額または一部を補助することで支援いたします。

### 補助内容および支給方法

- 2025年度内に各種資格試験等を受験した場合、申請に基づき、一人につき、同年度内において2回まで受験料の全額または一部を補助いたします。
- 受験料補助の対象となる資格試験等については学部窓口までお問い合わせください。
- 2回の補助額合計は、15,000円を超えないものとします。
- 補助金の支給は、学生本人または学資負担者名義の口座に振込で行います。

### 申請要件(資格)

- 名城大学都市情報学部在籍(休学中でも申請可)し、かつ都市情報学部後援会に入会していること。
- 都市情報学部後援会が補助対象に指定した資格試験等を受験し、実際に受験したことを証明する資料(写し可)が提示できること。ただし、可否等は問いません。

### 申請方法および申請期間

- 補助希望者は、後援会指定の申請書類等を添えて期間内に申請してください。
- 申請期間は、年度内としますが、3月に実施する試験については、翌年度の4月中に申請する場合のみ試験実施年度分の補助として取り扱います。4年次生については、卒業日までに申請書を提出した場合は補助することといたします。

### 申請書類

- 資格試験受験料補助申請書
- 振込依頼書 ※通帳中表紙のコピー添付
- 受験料領収書(原本のみ)または振込明細書(原本のみ)
- 受験したことを証明する資料(写し可)  
証明する資料の例: <可否通知>や<受験証明書>や<受験票+問題用紙など>など  
提出資料で不明な点があれば学部窓口にお問い合わせください。

『TOEIC-IP』試験受験料補助制度について

名城大学 都市情報学部の学生の皆さんが、実践的な英語能力に自ら磨きをかけて頂くきっかけとすることや、受験料に対する経済的支援を目的として、名城大学ナゴヤドーム前キャンパスで実施される『TOEIC-IP』試験の受験料を補助いたします。

### 補助内容および支給方法

- 2025年度内に名城大学ナゴヤドーム前キャンパスにおいて実施されるすべての『TOEIC-IP』試験の受験料補助として、申請に基づき受験料を全額補助いたします。
- 補助金の支給は、学生本人または学資負担者名義の口座に振込で行います。

### 申請要件(資格)

- 名城大学都市情報学部在籍(休学中でも申請可)し、かつ都市情報学部後援会に入会していること。
- 今年度ナゴヤドーム前キャンパスで実施された『TOEIC-IP』試験を受験した者。

### 申請方法および申請期間

- 申請者は、後援会指定の書類および受験を証明する書類等を添えて期間内に申請してください。
- 申請期間は、窓口にお問い合わせください。  
・試験は受験者の健康と安全を最優先に考えた措置等の為に、中止・延期または日程変更させていただくことがあります。  
※1年次生に限り1回の受験料は後援会でなく学部で負担しております。

### 申請書類

- 学内『TOEIC-IP』試験受験料補助申請書
- 振込依頼書 ※通帳中表紙のコピー添付
- 振込明細書(原本のみ)
- 『TOEIC-IP』試験スコアレポートの写し

エクステンション講座受講料補助制度について

名城大学都市情報学部が重点課題に掲げる「学部学生の人材高度化支援」に呼応し、本学エクステンション講座を利用する都市情報学部生の皆さんを、対象講座の受講料の一部を補助することで支援します。

### 補助内容および支給方法

- 2025年度内に開講されるエクステンション講座を受講した場合、申請に基づき、一人につき、1講座分の受講料の3割の金額(百の位は四捨五入)を補助いたします。
- 補助の対象となる講座は、天白キャンパス・ナゴヤドーム前キャンパス含む名城大学で開講される全講座です。
- 補助金の支給は、本学エクステンションセンターに受講料の全額が納入された後、学生本人または学資負担者名義の口座振込で行います。なお、予め納入受講料額から補助金額を差し引くことはできません。

### 申請要件(資格)

- 名城大学都市情報学部在籍(休学中でも申請可)し、かつ都市情報学部後援会に入会していること。
- 全日程が終了した後に講座の出席率が7割以上であったことが確認できること。なお、ナゴヤドーム前キャンパス事務室内のキャリア支援窓口で各講座の出欠状況が確認できます。各自で申請前にお問い合わせのうえ、必ず申請要件を満たしていることを確認してください。

### 申請方法および申請期間

- 補助希望者は、都市情報学部後援会指定の書類を添えて期間内に申請してください。
- 申請期間は原則年度内としますが、3月下旬または翌年度の4月に終了する講座については、講座が終了した日から翌月までに申請した場合に限り、講座申込年分の補助として取り扱います。

### 申請書類

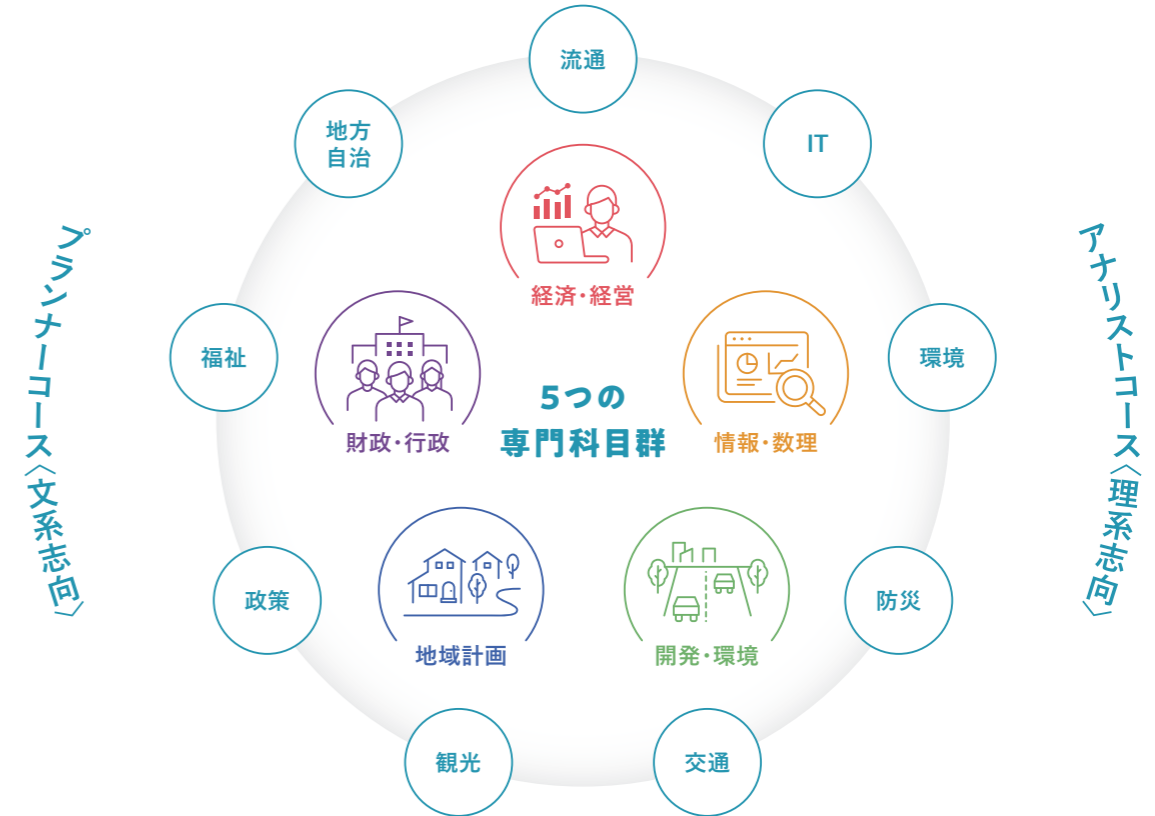
- エクステンション講座受講料補助申請書
- 振込依頼書 ※通帳中表紙のコピー添付
- 出欠状況確認メモ(キャリア支援窓口にて受理)

📧 問い合わせ・申請書類の提出先

〒461-8534 名古屋市東区矢田南四丁目 102 番 9  
名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス  
都市情報学部事務室内  
**都市情報学部後援会事務局**

# 分析力と創造力で、どんなまちをつくらう。

名城大学都市情報学部は、人が住みやすい新しい都市像を創造し、情報化社会に役立つ人材を育成する全国唯一の学部です。現在の都市が抱える諸問題を総合的に解決するための視野と知識の修得をめざして幅広い教育を実践しています。



- 経済・経営**  
経済学・経営学のアプローチから、企業や地場産業の経済活動を分析。事業のマネジメントや金融、流通などについても学びます。
- 財政・行政**  
国や自治体の財政状況と、行政による都市政策を分析します。社会保障や自治、福祉などについてもさまざまな視点で知り深めます。
- 地域計画**  
市民のためのまちづくり政策について考えます。都市計画や都市デザイン、防災、交通や観光など、幅広い分野で分析していきます。
- 開発・環境**  
まちづくりにおける開発・環境問題について分析。事業構想や地域開発、さらに地域環境の評価や保全、マネジメントまで学びます。
- 情報・数理**  
都市問題を分析する手法や考え方を身につけ、研究します。データ分析や数理、情報処理など、情報社会に必要なスキルも磨きます。

**学びのステップ**

- 1年次**  
“都市情報学”とは何か、その概念を知る  
一口に“都市情報学”と言っても、その学問領域は広く、文系・理系の枠に留まりません。そこで、1年次に『都市情報学概論I・II』を開講し、今後4年間の学びや研究のテーマを紹介していきます。授業は都市情報学部の全教員がオムニバス形式で担当。都市情報学部の学びの広さに触れることができ、都市問題に対する関心を引き出します。
- 2年次**  
情報処理の基礎的能力を修得  
1・2年次に履修するコンピューター演習科目は、少人数制できめ細かく指導。演習を通して、必要な基礎知識や技能、OS (Windows・Linux) の操作方法や、コンピューター言語 (VB・C言語) などを学び、高度情報社会で活躍できるスキルを身に付けます。
- 3・4年次**  
新しい都市の創造をめざし、5つの専門科目群を設置  
少人数ゼミナールにて問題発見・解決能力を育てる  
主に3年次では進路志望に沿って各科目群の科目を横断的に学習します。ゼミナールは1ゼミナールあたり8人前後の徹底した少人数教育で行います。3・4年次の2年間にわたり、対話や討論、実習、調査等を通じて問題の分析および解決の能力を養い、発表等の技術を身に付けます。各自の研究テーマは卒業論文としてまとめ、発表します。

## 学部長よりみなさまへ

学部創立30周年を迎え、大変うれしく思います。振り返ると、実にいろいろなことが思い出され、「あつという間の30年間」ではなく、「やっと辿りついた30年目」という思いを強くします。

この30年、大きな変化がありました。その最たるものはカリキュラムの大幅な変更とキャンパス移転の2つです。本学部の設立のコンセプトは「都市問題の解決」「未来の都市創造」ですが、それを推進することと都市を取り巻く情勢は常に一体で不可分でした。そのため、カリキュラムの大幅な変更がこれまで二度行われました。一度目は「サービスサイエンス」の概念の導入、二度目は観光系科目の導入です。

2017年4月、本学部は創立の地である可児キャンパスを離れ、新しくできたナゴヤドーム前キャンパスに移転しました。この転機は実に大きな変化となりました。「郊外型キャンパス」から「都市型キャンパス」への変化ですから、変化の態様は計り知れません。在籍する学生と教員に意識や価値観の変化が求められたのはいうまでもありません。

これ以後、学部創立40周年、50周年をめざしていくこととなりますが、創立当初に掲げた「都市問題の解決」「未来の都市創造」の軸がぶれることなく進んでいければと思います。それこそが本学部の存在する意義なのですから。

名城大学 都市情報学部 学部長

亀井 采治

# Message

## 都市情報学部の「学部の窓」とは

光や風を取り入れたり、景色を眺めたりする「窓」。窓には、こちら側とむこう側をつなぐ役割があると思います。この「学部の窓」は、都市情報学部とのさまざまな「つながり」を共有します。

この一冊を通して、地域や社会とのつながり、先生や卒業生、後援会の方々とのつながりを感じてもらえたら嬉しく思います。

学部の窓 No.30 | Faculty News 2025

発行日：2025年3月18日  
編集・発行：名城大学 都市情報学部 後援会